



## 資産・財務内容において、 引き続きトップレベルの健全性を 堅持しています。

予測を超えたリスクにも十分対応できる支払余力を確保しています。

ソルベンシー・  
マージン比率 **1,179.9%**

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の前測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。平成17年度末のソルベンシー・マージン比率は1,179.9%(前年度末差289.4ポイント)と十分な支払余力を確保しています。

健全な経営を維持していくための十分な純資産額を備えています。

実質純資産額 **4兆8,866億円**

実質純資産額とは、時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いた、いわゆる時価ベースの純資産額で、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。平成17年度末の実質純資産額は4兆8,866億円(前年度末差1兆6,024億円)で、一般勘定資産に対する比率は19.1%(前年度末差5.7ポイント)と十分な水準を確保しています。

安定した収益力を有しています。

基礎利益 **4,681億円**

基礎利益とは、保険料収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間収益の状況を表わす指標です。平成17年度は4,681億円(前年差 115億円)と安定的な基礎利益を確保しています。なお、基礎利益から、有価証券の売却損や評価損、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを差し引いた最終的な剰余を定款に従い配当としてご契約者に還元しています。

平成18年7月の総代会決議を経て、平成17年度決算に基づく当期末処分剰余金1,898億円のうち1,553億円を社員配当準備金として繰り入れます。

法定の剰余金処分対象額に占める割合は95.2%です。

厳正な自己査定を実施し、資産内容の健全性を堅持しています。

リスク管理債権 **0.54%**  
(リスク管理債権額の貸付残高に対する比率)

リスク管理債権とは、貸付金のうち、返済状況が正常でない債権を「破綻先債権」「延滞債権」「3か月以上延滞債権」「貸付条件緩和債権」の4つに区分した総称です。平成17年度末のリスク管理債権額は373億円(前年度末差 41億円)、貸付残高に対する比率は0.54%(前年度末差 0.04ポイント)と、きわめて低い水準を堅持しています。

バランスのとれた堅実な資産内容で、十分な企業体力を堅持しています。

含み損益 **3兆682億円**  
(一般勘定資産全体)

含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額(取得価額)との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。平成17年度末は、一般勘定資産全体で3兆682億円(前年度末差1兆4,949億円)の含み益を確保しています。

各資産における含み損益の状況は次のとおりです。(平成17年度末含み損益)

公社債	株式	外国公社債	外国株式等	土地(注1)	その他(注2)
281億円	2兆5,314億円	730億円	2,734億円	2,198億円	15億円

(注1)土地には借地権を含めています。

(注2)その他は、買入金銭債権・デリバティブ取引等です。